

平成 25 年度 特定非営利活動に係る事業報告書

1. 事業の成果

概況報告

平成 25 年度（第 3 期）は役員の改選期にあたり、新任の理事に桐石二男氏、富澤崇氏、原勇一氏、吉田明氏、監事に原田泰夫氏が就任いたしました。平成 25 年度は将来を見据えて組織の継続性を確かなものにするための基盤強化を図るため、運営体制を強化しスタートいたしました。

平成 25 年度決算は当期正味財産増加額が予算に対し 239,555 円改善し 48,555 円となり、正味財産として 2,364,492 円を次期に繰越すことができました。

平成 26 年 3 月 31 日現在の会員数は、前年度中に 22 名の退会者がありましたが、26 名の方が新たに入会し、148 名（社員 = 正会員 140 名、顧問 3 名、賛助会員 1 名、協力会員 4 名）となりました。

平成 25 年（暦年）は手賀沼トラストが任意団体として発足して 15 年目の記念すべき年、本年 2 月に実施したしんポジウムに引き続き、7 月に「手賀沼トラスト展 & 日暮朝納遺作展」、8 月に「かかし祭」、11 月に「そば祭り」を記念事業として実施いたしました。何れのイベントも会員の皆様のご協力とスタッフの皆様の活躍で成功裡に終えることができました。

一方、安全管理面では平成 25 年 1 月に各グループがそれぞれ策定した『作業（業務）上の「注意事項」』を周知徹底し、作業の安全に努めて頂いた結果、大きな事故もなく推移いたしました。

環境保全グループ

当グループは根戸城址を中心に里山と田畑の関係を保全、次代へ継承する活動をいたしました。

- ・道路清掃：定例活動日には根戸城址通りの一部ですがゴミ、落ち葉を処理いたしました。ゴミは毎回発生していました。
- ・根戸城址の管理：落ち葉集め、枯れ枝積み込み、倒木、枯れ木の処理、野外ステージの設置、片付け、雪による倒竹の処理、など現状保全を心がけました。
- ・竹教室：採取、油抜き等一連の工程を体験、作品作りに励み、作品をトラスト展に出展多くの来場者に活動をアピールしました。
- ・ミカン山：立ち木の矯正、剪定、施肥、除草管理を行い秋には沢山の収穫を得、皆で賞味し、さらに贈答品としても活用しました。栗の木も沢山の実を落とし楽しませてくれました。夏には全体の除草を行い、隣接地の木々の処理を行いました。
- ・ハス田：枯れ茎の処理、雑草の処理など厳しい作業を行い、いつも通りの開花を迎え、ふれあい通りの歩行者や来観者の方々の目を楽しませることができました。また、来観者の皆様にハスの切り花をお持ち帰り頂き、ハス田の管理のための協力金を寄附して頂き、保全活動に活かすことが出来ました。
- ・養蜂部会：熱心な活動により巣箱の繁盛をみましました。蜂蜜、蜜蝋製品等を製作し、会員の皆様に販売、多くの方々から大賛同を頂き、活動資金に当てることが出来ました。トラスト展においては熱心な説明で多くの方々に興味を持って頂きました。蜜源植物の栽培や、さらに活動を広げるよう、部会員の皆様にも巣箱の設置を勧めました。
- ・その他、手賀沼トラスト展、稲作、そば栽培等の準備から後処理までの活動を行いました。

農事・農教室グループ

当グループは有機無農薬栽培の体験、教育、実習、普及活動を行いました。

全会員が参加対象の水稻、そばの栽培は今年も大勢の会員の皆さんの参加を得て行われました。米（粳摺り後）の収量は 553.8kg（もち米 273.0kg、うるち米 210.0kg、黒米 50.1kg、赤米 20.7kg）そばは玄そばで 105.1kg を収穫、種用に 5kg を残し、そば粉として 69kg を収穫しました。米とそば粉は参加者の皆さんに分配、余剰分を販売し、事業収入として計上しました。

農教室は、受講生を 6 チームに編成、サポートチーム及び田畑整備チームを設置するなど、チーム単位で、計画的、効率的に作業を行えるような運営体制をとりました。本年は臨時の作業を含め 24 回の活動を行いました。栽培作物は 21 種類、主な野菜の収量は、ジャガイモ 439kg、トウモロコシ 200 本、サツマイモ 220kg、サトイモ 484.4kg、スイカ（大・小）140 個、ラッカセイ 169.2kg、ナス 800 本、ニンジン 540 本、ダイコン 160 本、ネギ 552 本、カボチャ 60 個等を収穫し、参加した受講生の皆さんに分配し味わっていただきました。修了式では、受講者 81 名のうち、規定の課程を修了した 50 名の方に修了証書が授与さ

れ、9名の方に皆勤賞が授与されました。また、農作業を指導して頂いたアドバイザー2名の方に感謝状が贈られました。

特別コースは10回の講座(外部見学会を含む)を行い、有機農業に対する知識と技術の習得に努めました。また、受講者の共通課題であるサトイモの品評会では、最優秀賞1名、優秀賞2名の方が受賞されました。

ハーブ部会は14名の方が参加し、日本のハーブ、アジアのハーブ、ヨーロッパのハーブ等「食を豊かにし、生活に癒しと潤いを与えてくれるハーブ」の栽培にチャレンジしました。

田畑整備チームは、田んぼや圃場の除草、耕耘、施肥、暗渠の清掃等、田植えや農教室の実習が効率的、効果的に行えるように環境整備を行いました。

農地保全グループ

当グループは、以下の活動を実施しました。

- ・油糧植物(ヒマワリ)の栽培及び植物油を商品化することにより、遊休地を利用した「地あぶら」の生産事業の有効性を実証しました。
- ・2aの畑からヒマワリの種33kgを採取し、175g入りビンで47本の植物油を商品化しました。

交流事業グループ

当グループは、会員相互、並びに一般市民との交流を図る目的で各種イベントを開催するとともに情報交換・情報の共有化を図る活動を展開しました。特に今年度は15周年記念事業として位置づけられた行事に力を注ぎました。15周年記念事業としては7月に我孫子市民プラザギャラリーにて「手賀沼トラスト展&日暮朝納遺作展」を開催しました。事前の告知とともに朝日新聞地域版に掲載されたこともあり、6日間の開催で1,239名の来場者を数え大盛況となりました。

7月~8月にかけては例年行っている「かかし祭り」も15周年記念として拡大して開催し、コンテストの当日には過去最高の85名の参加者で賑わいました。作られた案山子は28体。どれも素晴らしい力作が田んぼに立ち並びました。また、11月の「そば祭り」も15周年記念事業に位置付けられ、例年は単独開催となっていた「落語会」との共催となりました。特に、根戸城址の本丸跡に間伐材を利用した野外舞台が完成し、素晴らしい会場となりました。そこで行われた「あしたば」の皆さんによるコカリナの演奏、山遊亭金太郎師匠による落語は根戸城址に新たな魅力を生み出しました。このそば祭りは過去最高の125名の参加者を数えました。

その他、5月の田植えと早苗饗でも98名の人たちが参加し、前年度よりも20名程の参加者増となりました。早苗饗のメニューはトン汁、お赤飯、お漬物、そばがき。蕎麦勉強会の皆さんのそばがきは早苗饗としては初めての試みでしたが、参加者に好評を博していました。12月の餅つき大会も例年通り100名程が参加し、賑やかに1年の活動の締めを飾りました。

この一年は15周年記念事業が大きな位置を占め、計画通りに事を進められるのか不安もありましたが、ふたを開ければどのイベントも参加者の歓声や笑顔に包まれる大盛況となる大変充実した年となりました。

事務局

事務局は、会議運営・記録、会計業務(年度予算、月次決算、現金出納業務等)、広報活動、安全・リスク管理等のルーティン業務と年度当初に掲げた以下の5項目の課題の検討を行いました。

法人化後2年が経過、組織運営のルールの定着化を図る。

定款に掲げた目的を達成し、組織としての継続性を確かなものにするための基盤強化を図る。

NPO法人としての信頼性確保のために情報公開・情報発信活動等広報活動を積極的に展開する。

活動中の安全管理、リスク管理の徹底。

創立15周年記念事業の企画・運営。

以上の課題のうち「創立15周年記念事業」については、会員の皆様の一致協力により成功裡に終了することができました。 ~ につきましては単年度で解決できるものではありません。今後も継続して取り組むべき課題であると考えております。

特に組織としての継続性の確保につきましては、組織運営上の課題、すなわち、リーダー層の高齢化、活動を継続推進するための知識・技術・技能の継承等々解決すべき問題が顕在化し、喫緊の課題になっております。これらの課題に対応すべく、昨年12月、当法人の設立の理念を継承し、次代を担っていただく方々を選任し、「組織・制度等検討ワーキンググループ」を設置、本年9月を目的に検討を開始いたしました。